ウィルスフリー巨峰の優良系統選抜

1．試験のねらい

巨峰の赤熟れ果の発生は、経済栽培にとって大きな負担であり、樹によって発生の程度に差がある。そこで、優良な系統を収集し、これをフリー化したものの本場における特性を明らかにし、栽培性を評価するため、平成3～5年に特性を検定した。

2．試験方法

昭和55年～58年に収集した、結実程度、果実品質に関して優良な6系統について、木本植物によるウィルス検定を行ったところ、ＧＦＶ，ＧＬＲ，ＧＣＢについては、すべての系統がフリーであった。ＧＦ１は、＋または±であった。これを、当場で茎頂培養または熱処理後の茎頂培養によってフリー化した。昭和60年4、7月または、63年4月に鉢上げ、順化した10系統34樹について、品種系統適応性・特性検定試験調査方法（落葉果樹・農水省）に準じて特性を検定した。

3．試験結果及び考察

1991年から93年の3カ年の結果によると、結実性、果粒着色等、年次による変動が見られるが、開花期等の生育特性には各樹に差は見られなかった。選抜した3系統の特性は表のとおりである。

(1) 花振い性は中～多であった。

(2) 果粒重は12～13ｇであった。

(3) 糖度は18～19％であった。

(4) 酸度は約0.5％であった。

(5) 着色は良～ヤヤ良で、カラーチャート値は、10.0程度であった。

4．成果の要約

フリー化した6系統の中から、果粒重、着色に絞って検討した結果、毎年安定して果粒が大きく、着色も良い樹として、富山系、佐山栄系、小林系より各1樹ずつ計3樹を選抜した。

（担当者　果樹部　高野孝夫）

表－1　生態・果実特性

個体名	年	結実性	果粒重	糖 度	酸 度	着色	
（圃場定植年）	次	花振い	g	Brix%	ｸｴﾝ酸%	程度	ｶﾗｰﾁｬｰﾄ
小林系	91年	中	12.9	19.5	0.41	良	11.8
（1987）	92年	多	12.2	19.1	0.51	ヤ良	9.5
	93年	中	13.5	18.8	0.58	ヤ良	8.7
	平均	中～多	12.9	19.1	0.50	良～ヤ良	10.0
富山系	91年	多	11.6	18.4	0.43	良	11.5
（1988）	92年	多	11.9	19.1	0.48	ヤ良	10.0
	93年	中	13.2	18.0	0.62	ヤ良	8.6
	平均	中～多	12.2	18.5	0.51	良～ヤ良	10.0
佐山栄系	91年	中	12.8	19.0	0.42	良	11.1
（1988）	92年	ヤ多	12.2	18.0	0.53	ヤ良	10.1
	93年	ヤ多	13.7	17.6	0.61	ヤ良	8.5
	平均	中～ヤ多	12.9	18.2	0.52	良～ヤ良	9.9